

〔科目名〕 <p style="text-align: center;">監査論Ⅱ</p>	〔単位数〕 <p style="text-align: center;">2単位</p>	〔科目区分〕 <p style="text-align: center;">専門科目 展開科目</p>
---	--	---

〔担当者〕 <p style="text-align: center;">紫関 正博 Shiseki Masahiro</p>	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業の開始時に提示 場所: 研究室(512)	〔授業の方法〕 <p style="text-align: center;">講義</p>
---	--	---

〔科目の概要〕

監査(または財務諸表監査)制度は、会計制度を通じて企業が作成した会計文書(財務諸表)が適正であるかをチェックする社会制度の一構成要素である。こうした役割を監査が担っているにもかかわらず、なぜ粉飾決算は繰り返されるのかを想起しておく必要がある。その原因の1つは、現代の会計がフェア・バリュー(Fair Value)を導入し、会計において将来という概念が採用されることによって、会計文書(財務諸表)上で将来に関わる会計実務(会計の「用語」と「数値」(金額))が含まれていることにあるように思われる。確かに、監査を実施することで、企業が会計法規や会計基準などに基づいて適正な財務諸表を作成したかをチェックできるが、将来に関する会計事象(会計の「用語」と「数値」(金額))に対してはどのように信頼性を付与すればよいであろうか。現在、こうした問題が監査の領域で生じている。

「監査論Ⅱ」では、現代の監査における課題を念頭に置きながら、財務諸表監査を実務的側面から学ぶ。本講義では、監査実務を主なテーマとして、公認会計士(監査法人)による監査契約の締結から監査意見の形成までの監査のプロセスを考察する。また、現代の監査の手法として用いられている監査リスク・アプローチを取り上げ、監査とリスクが如何なる関係にあるのかという観点から、公認会計士(監査法人)によって行われる現代の監査実務を学ぶ。講義では、内部統制と監査、監査上の主要な検討事項(KAM)、監査報告書の役割の他、監査の品質を維持するための近年の監査制度の改革も学ぶ。また、関連する会計不正の事例も取り上げる予定である。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

- ・他の科目との関連付け
 監査の対象は財務情報であることから、「監査論Ⅱ」は、監査概念や監査制度などを取り上げる「監査論Ⅰ」の他にも、他の会計関連科目(会計学基礎論、財務会計論Ⅰ・Ⅱ、財務分析Ⅰ・Ⅱ、財務管理など)で学習した会計の理論や実務を再確認し、現代の会計に対する理解をさらに深めていくことにもつながります。
- ・学ぶ必要性と学ぶことの意義
 会計は、ビジネスの言語として、ビジネスパーソンに必須の知識となっています。財務諸表監査を理解することは、会計文書(財務諸表)を社会に公表する意義を再認識する上で有益です。最近では、財務諸表監査の他にも、企業などの組織における内部監査の導入と上場企業などに対する内部統制の制度化により、ビジネスの現場に監査が現われる場面も増えていきます。近年は、監査法人で働く会計専門職業人のみならず、会計文書(財務諸表)を作成する側の企業に関係する人々も、監査の役割を理解する必要性が高まっています。

〔科目の到達目標〕

(中間目標) 公認会計士(監査法人)の視点から、財務諸表監査の手法を学び、監査のプロセスを理解する。
(最終目標) 財務諸表監査の手法を習得し、現代の監査における課題を考え、現代会計の下での監査の意義を理解する。

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕

学部				学科		
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○

<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</p> <p>マイクの調整や声の出し方により、しっかりと音声を伝え、聞き取りやすくするように心掛けます。また、レジュメや教科書の該当箇所が分からなくならないように配慮します。授業内容の理解をさらに深めるために、予習と復習を行い、積極的に授業に参加して下さい。</p>																					
<p>〔教科書〕</p> <p>・伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏 著『ベーシック監査論(九訂版)』, 同文館出版, 2022 年。</p>																					
<p>〔指定図書〕</p> <p>・山浦久司 著『監査論テキスト[第9版]』, 中央経済社, 2024 年。</p>																					
<p>〔参考書〕</p> <p>・長吉眞一・伊藤龍峰・北山久恵・井上善弘・岸牧人・異島須賀子 著『監査論入門(第6版)』, 中央経済社, 2024 年。</p> <p>・蟹江 章・井上善弘・栗濱竜一郎 編著『スタンダードテキスト監査論(第7版)』, 中央経済社, 2024 年。</p>																					
<p>〔前提科目〕</p> <p>前提科目はなし。「監査論 I」, 「会計学基礎論」, 「財務会計論 I・II」(できれば, 他の会計関連科目も)を履修していることが望ましい。</p>																					
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>・授業の参加度を確認するため, 3~5 回程度, 小課題を実施する。また, 期末試験の他に, 小テストを行う。<u>小テストの実施日は, 授業内および掲示で伝達するので, 注意すること。</u></p> <p>・評価は, 小課題(10%), 小テスト(30%), 期末試験(60%)による。なお, 直近のビジネス会計検定試験の成果(合否)を, 若干成績に加味して評価します。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>(評価)</td> <td>A: 80%以上</td> <td>GPA</td> <td>4.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B: 70%~80%未満</td> <td></td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C: 60%~70%未満</td> <td></td> <td>2.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>D: 50%~60%未満</td> <td></td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>F: 50%未満</td> <td></td> <td>0.00</td> </tr> </table>		(評価)	A: 80%以上	GPA	4.00		B: 70%~80%未満		3.00		C: 60%~70%未満		2.00		D: 50%~60%未満		1.00		F: 50%未満		0.00
(評価)	A: 80%以上	GPA	4.00																		
	B: 70%~80%未満		3.00																		
	C: 60%~70%未満		2.00																		
	D: 50%~60%未満		1.00																		
	F: 50%未満		0.00																		
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>・初回の授業の際に, 評価方法の詳細を説明するので, 必ず出席すること。</p> <p>・受講生の学習理解度, 授業の状況などにより, 授業スケジュールに変更が生じる場合もあり得ます。</p> <p>・「監査論 II」の講義では, 受講者自らが「公認会計士」の職務を担当しているかのような意識を持ち, 現代の会計と監査がどのような関係にあるのかを意識的に考えてほしい。</p> <p>・授業では, 監査固有の専門用語が登場するので, 覚えることも多い。理解したことを定着させるためにも, 予習と復習をして授業に臨むこと。予習の際には, 教科書, 講義レジュメを読み, 授業に出席すること。</p>																					
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>																					
<p>授業スケジュール</p>																					
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンスと監査制度</p> <p>内 容: ガイダンス, 会社法監査と金融商品取引法監査を学ぶ</p> <p>教科書 第2章, 講義レジュメ</p>																				
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公認会計士と監査法人</p> <p>内 容: 公認会計士制度と監査法人制度を学ぶ</p> <p>教科書 第3章, 講義レジュメ</p>																				

第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査意見形成のプロセス①</p> <p>内 容: 監査契約, 監査計画, 経営者の主張, 監査要点を学ぶ</p> <p>教科書 第4章, 講義レジュメ</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査意見形成のプロセス②</p> <p>内 容: 監査証拠, 監査手続(監査技術)を学ぶ</p> <p>教科書 第5章, 講義レジュメ</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査リスク・アプローチと監査戦略①</p> <p>内 容: 監査リスク・アプローチの構成要素と監査リスクを学ぶ</p> <p>教科書 第5章, 講義レジュメ</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査リスク・アプローチと監査戦略②</p> <p>内 容: 監査上の重要性, 重要な虚偽表示のリスクを学ぶ</p> <p>教科書 第5章, 講義レジュメ</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): リスク評価, リスク対応および監査の完了①</p> <p>内 容: 監査戦略と監査計画を学ぶ</p> <p>教科書 第6章, 講義レジュメ</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): リスク評価, リスク対応および監査の完了②</p> <p>内 容: リスク評価とリスク対応を学ぶ</p> <p>教科書 第6章, 講義レジュメ</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査報告書と情報提供機能①</p> <p>内 容: 監査報告書の構造を学ぶ</p> <p>教科書 第7章, 講義レジュメ</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査報告書と情報提供機能②</p> <p>内 容: 監査意見の種類, 継続企業の前題の監査を学ぶ</p> <p>教科書 第7章, 講義レジュメ</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査報告書と情報提供機能③</p> <p>内 容: 監査上の主要な検討事項(KAM)を学ぶ</p> <p>教科書 第7章, 講義レジュメ</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 不正の防止と情報開示</p> <p>内 容: 内部監査と内部統制監査を学ぶ</p> <p>教科書 第8章, 講義レジュメ</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査の品質</p> <p>内 容: 監査(事務所)における品質管理, 会計エンフォースメント</p> <p>教科書 講義レジュメ</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 会計不正の事例</p> <p>内 容: 近年の会計不正事件のケーススタディ</p> <p>教科書 講義レジュメ</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 総復習</p> <p>内 容: 講義内容の総括</p> <p>教科書 講義レジュメ</p>
試験	